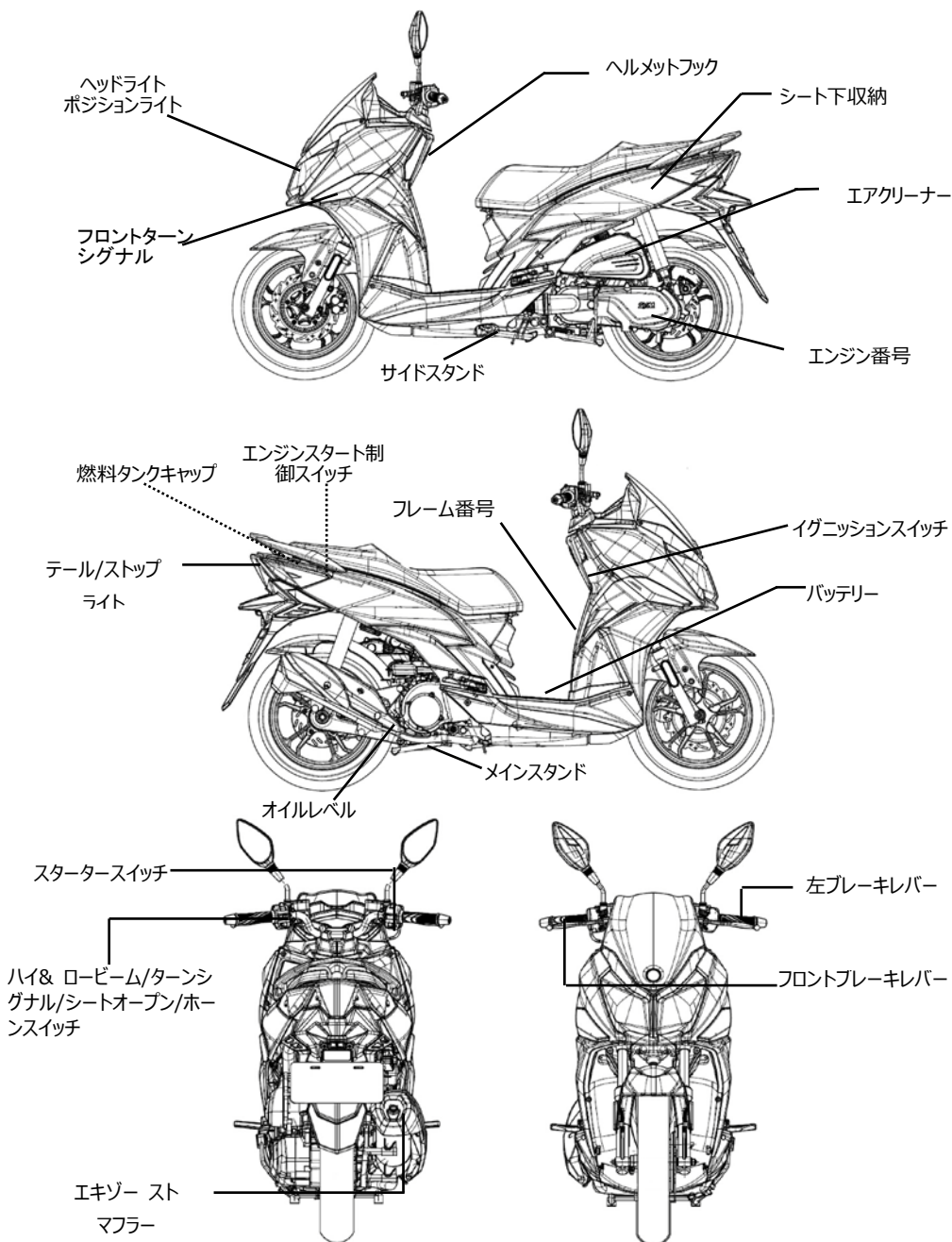


1. 目次

| | |
|-------------------------------|----|
| 1. 目次 | 1 |
| 2. 車両の部位および名称 | 3 |
| 3. お乗りになる前に | 4 |
| 4. 安全に乗車するために | 4 |
| 5. 運転上の注意 | 5 |
| 6. 純正補修部品（スペアパーツ）をお使いください | 5 |
| 7. 各コンポーネントの使いかた | 6 |
| ゲージ | 6 |
| イグニッションスイッチの動作 | 8 |
| ステアリングハンドルロックスイッチの動作 | 8 |
| シートオープンスイッチ | 8 |
| ボタンの使いかた | 9 |
| 収納ボックス | 10 |
| ヘルメットフック | 10 |
| 燃料タンクキャップ | 10 |
| ブレーキ | 11 |
| エンジンの始動に関する重要な点と注意点 | 11 |
| 8. 車両を停止させるには | 13 |
| スロットルグリップの制御 | 13 |
| 駐車方法 | 13 |
| 9. 乗車前の点検・メンテナンス | 14 |
| 定期点検 | 14 |
| エンジンオイルの点検及び交換 | 14 |
| 燃料の点検 | 15 |
| トランスミッションオイルの点検及び交換 | 15 |
| ブレーキの遊びの点検と調整 | 16 |
| ディスクブレーキの点検(ディスクブレーキ装着モデルに適用) | 17 |
| スロットル(アクセル)グリップの調整 | 18 |
| バッテリーの点検とメンテナンス | 18 |
| タイヤの点検 | 19 |
| ステアリングハンドル フロントショックアブソーバーの点検 | 19 |
| ヒューズの点検と交換 | 20 |
| ターンシグナル(ウインカー)とホーンの点検 | 20 |
| ヘッドライトとテールランプの点検 | 20 |

| | |
|---------------------------|----|
| ブレーキライトの確認 | 20 |
| 燃料漏れの確認 | 21 |
| 車体各部の潤滑の点検 | 21 |
| スパークプラグの点検 | 21 |
| エアクリーナーの点検 | 21 |
| 10. 異常な状態やトラブルがある場合 | 22 |
| エンジンが始動しない場合の診断 | 22 |
| 11. 燃料に関する規定 | 22 |
| 12. トランスミッションオイル | 22 |
| 13. スクーターに乗る時の注意 | 23 |
| アンチロックブレーキシステム | 24 |
| 14. 冷却システムの点検 | 25 |
| 15. 定期点検スケジュール | 27 |
| 16. 仕様 | 28 |
| 17. 補償約款 | 30 |

1. 車両の部位および名称



3. お乗りになる前に

このマニュアルは、安全にお乗りいただくためのヒントや簡単な点検方法など、車両の正しい使用方法について説明するものです。より快適で安全な乗り心地のためにも、このマニュアルを丁寧に読んでください。

担当させていただくSYM正規販売店にもマニュアルに従った対応、特に下記の2点に関する確認を依頼しましょう。

- オートバイの正しい使用方法。
- 納車前点検の実行、および適切なメンテナンス。

SYM 製品をお選びいただき、心よりお礼申し上げます。

オートバイの性能を最大限に引き出すためには、定期点検とメンテナンスを完全に行う必要があります。

最初の 300 キロメートルの走行後、最初の検査のためにご購入元の販売店にあなたのオートバイをお持ち込みになり、その後も 1000 キロごとに定期的にバイクを点検することをお勧めします。

- スクーターの仕様や構造は予告なく変更されることがあります。お手元の車両がこのオーナーズマニュアルやカタログ上の写真、図と異なる場合、実際のスクーターの仕様と構造が優先されます。

4. 安全に乗車するために

適切な服装で運転し、交通規制を守り、慌てず、常に慎重に運転し、リラックスすることは非常に重要です。

通常、ほとんどのお客さまは新車を丁寧に扱いいただけますが、車両の取り扱いに慣れ親しんだのち、運転が無謀になり、事故に遭う可能性が増えていくことが散見されています。



お忘れなく:

- 乗車用ヘルメットを着用し、オートバイに乗る際は、ちゃんとあご紐を締めてください。
- 袖口が開いているか緩い服は走行風によって舞い、袖口がハンドルに引っ掛かる恐れがあります。安全なご利用に影響を及ぼす恐れがありますから、タイトな袖の服を着用するなどのご対応をお願いします。
- 乗車時には両手でハンドルをお持ちください。片手で乗らないこと。
- 制限速度を守りましょう。
- 安全のためにも、適切なローヒールの靴を着用しましょう。
- **スケジュールに従って定期的なメンテナンスと点検を行いましょう。**

⚠ 警告！！

- 二人乗りの場合、後席のライダーが乗降時にマフラーなどでやけどを負わないよう十分注意しましょう。乗車時には後席のライダーが確実に正しくタンデムステップに足を乗せていることを確認しましょう。
- 走行後、マフラーは非常に高温になります。点検やメンテナンスを行う際に火傷を負わないよう注意しましょう。
- 走行後、マフラーは非常に高温になります。車両を駐車する際には、付近を通行する第三者が接触してやけどを負うことが無いよう、十分注意し、適切な場所に駐車しましょう。



注意:

オートバイの改造は、その構造や性能に影響を与え、エンジンの動作不良や排気騒音を引き起こし、オートバイの耐用年数を短くします。

また、改造はしばしば違法行為となりますし、本来の車両の設計と仕様と準拠していません。

改造されたオートバイは保証の対象とならないため、オートバイの改造は行わないでください。

5. 運転上の注意

- 腕、手のひら、腰部、足の指など、身体の間連部分を、必要などきにいつでも素早く反応できるように、最も快適な姿勢でリラックスして乗り心地を保ちましょう。
- ライダーの姿勢は安全なライディングに大きく影響します。常時、車両の重心に近いポジションに体を保つようにしましょう。もし後ろ寄りに着座していると、前輪の負荷が減少し、ステアリングハンドルが大きく振動する原因となります。こうした不安定なハンドリング下での運転は危険です。
- カーブを曲がるときには、ライダーがその体を内側に傾けると、より簡単に旋回できるでしょう。一方、車両のバンク角（傾き）とライダーの姿勢とが乖離しすぎていると、車両の動きを不安定に感じてしまうはずです。
- この車両は、でこぼこで、平坦ではない、舗装されていないような道路で操作を行うことは容易ではありません。こうした道路状況では、早めに先を読み、減速し、肩の力を使ってハンドルを制御しましょう。
- フットレストの前方に重たいものを必要以上に載せることは、ハンドル操作を困難にさせるなど、ライディングの安全性を損なう恐れがありますから、避けるようにしましょう。



注:

荷物の積載の有無で、ライダーが感じ取るハンドリングには必ず違いが生じます。過積載はハンドリングを損ね、安全な運転の妨げになりますから、避けてください。



注:

- 本体側カバーとエンジン間にウェスなどの可燃性の素材でできた商品などを置かないこと。出火の原因となる恐れがあります。
- 損傷などを避けるためにも、荷物用と指定された以外の個所に不必要な積載を行わないこと。

長くお楽しみいただくために：

愛車の性能を最大限に発揮させ、また長くお楽しみいただくために、納車後 1 カ月、あるいは納車後 1000km を慣らし期間として頂き、急加速を避け、最高速を 60km/h 以下に抑えて走りましょう。

6. 純正補修部品（スベアパーツ）をお使いください

車両の性能を最大限に発揮させ、維持するためには、各部品の品質、素材および加工仕上げは本来の設計時の条件に厳格に合致している必要があります。「SYM 純正補修部品（スベアパーツ）」は、この車両を製造する際に使用されたものと同じ、高品質の素材で作られた補修部品です。洗練されたエンジニアリングと厳しい品質管理を通じて設計された仕様を満たした部品だけが、正規のルートを通じて市場に向け販売されていきます。このため、補修部品の交換等の必要がある場合には、「SYM 正規販売店または取扱店」から「SYM 純正スベアパーツ」をご購入いただく必要があります。お客さまがこうした純正補修部品を使用せずに、安価な、非正規の第三者が製造し流通させているような類似商品をお使いになった場合には、SYM としては、品質や耐久性に疑念がありますため、保証を提供いたしかねますこと、ご承知おきください。また、こうした部品の使用は、予期しないトラブルを発生させたり、車両の性能が犠牲になったりといった可能性があります。

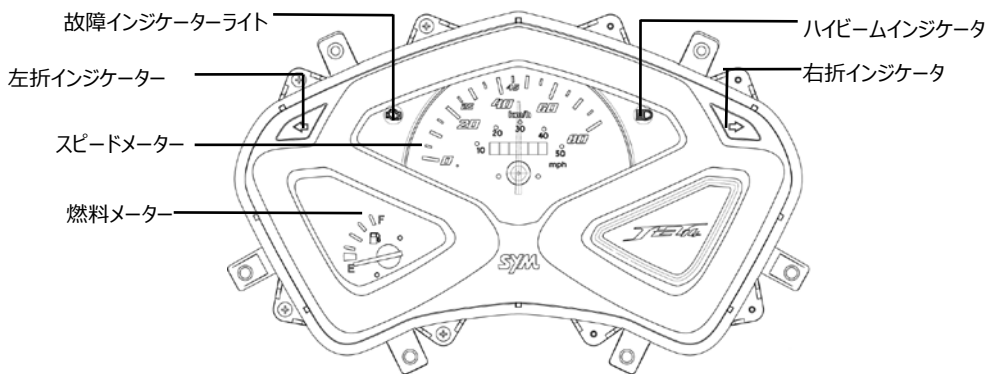
- 常にお使いの車両の純血をお守りいただき、その長い耐用年数を確保するために **SYM 純正スベアパーツ** を使用してください。

7. 各コンポーネントの使いかた

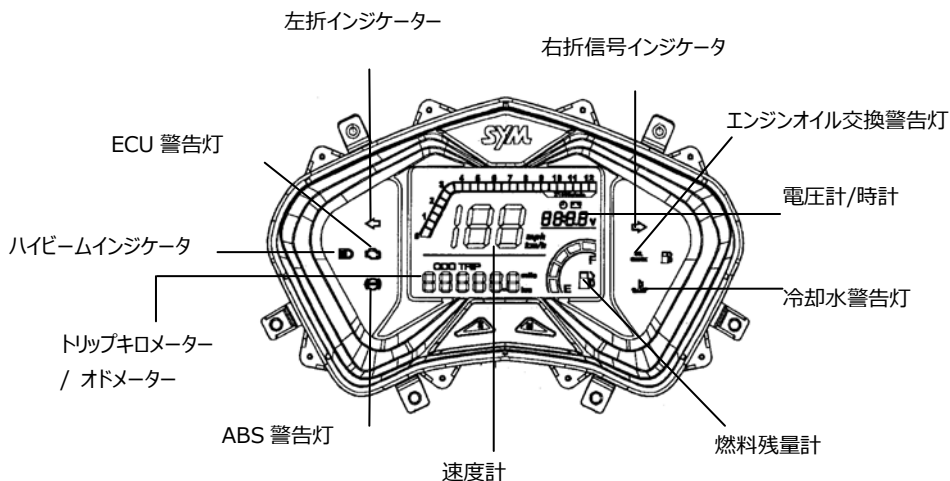
* 本項は SYM 4 ストローク強制空冷エンジンを搭載したモデルを中心に解説しています。細かいモデルバリエーションがあるため、実際に車両との仕様差につきましては、このマニュアルの最後を参照してください。

§ゲージ §

スピードメーターのパネルの配置はモデルによって異なる場合がありますが、通常は位置が同じです。



XC12WX/XC12WZ/XC20W2



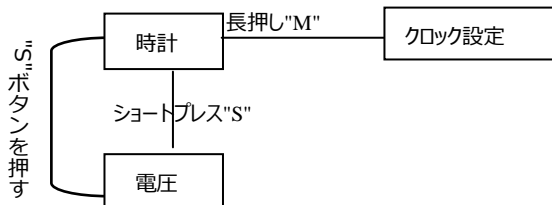
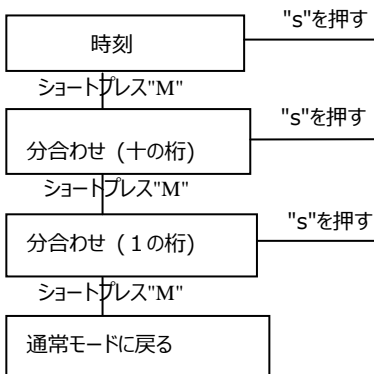
注意:

ダッシュボード、ヘッドライトなどのプラスチック製の部品は、損傷を避けるためにも、ガソリンなどの有機溶剤で拭かないでください。

- スピードメーター/ タコメーター:**
 走行速度 または エンジン回転数を示します。
- オドメーター:**
 新車からの合計累積走行距離を示します。
- トリップカウンター:**
 乗り手はこれを使用して、区間距離を測定することができます。
 通常の表示状態では、1 秒間「MODE」ボタンを押すと、総走行距離（オドメーター）を表示します。
 もう一度「MODE」ボタンを押すと、トリップカウンター・モードに切り替えることができます。
 トリップ・カウンター・モードで、「SET」ボタンを長押しすることで、記録された距離をリセットすることが可能になります。
- ハイビームインジケーター:**
 ヘッドライトがハイビームの時、このインジケーターが点灯します。
- ターン(左/右)シグナルインジケーター:**
 ターンシグナルスイッチの操作方向（左右）に応じて、このインジケーターの左右が点滅します。
- 燃料計:**
 タンクに残っている燃料の残量の位置を示しています。
 イグニッションキーが OFF の時には、燃料計の針（ポインター）は E を示します。
- 水温計(XC12WX-EU/XC12WZ-EU のみ):**
 エンジン冷却水の温度を検知し、示します。もしこのインジケーターが点灯した場合には、冷却水が十分なのか、またファンモーターが動作しているかどうかを確認する必要があります。
- 電圧計/時計:**
 バッテリーの電圧、または時計がここに表示されます。
 通常の表示状態で、「SET」ボタンを 0.5 秒長押しすると、「電圧」表示モードまたは「時計」表示モードを切り替えることができます。
 車両が静止状態にあるときに、時計表示モードで「MODE」ボタンを 2 秒以上長押しすると、**時間設定モード**に入ります。この時「MODE」ボタンを 1 秒押すと、設定モード(時→10 桁分→1 桁 1 桁分)を切り替えることができます。SET ボタンを短く押すことで、数値は 1 つずつ動きます。また、セッティングモード中に「MODE」ボタンを 2 秒以上長押しすることで、時計表示モードに戻ることができます。
- 異常警告灯:**
 ECU に何か問題がある場合、警告灯は常に点灯します。
- エンジンオイル 交換 警告灯:**
 エンジンオイル交換時期を示すために使用され、車両が前回のメンテナンス以降約 1000 キロメートルを走行したとき、インジケータライトが点灯し、オイル交換を行うようにユーザーに警告します。
 オイル交換終了後、メインスイッチを「ON」に入れて、「SET」ボタンを 2 秒間押すことでオイルモードに入り、警告灯をリセットできます。ここから再び 1000km 走行後に点灯する仕組みです。
- ABS 警告灯(ABS モデル)(XC20W2-EU/XC12WZ-EU のみ):**
 通常、ABS 警告灯は、イグニッションスイッチがオンになると点灯し、車両が動き始めると消灯するようになっていきます。ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯は、ABS システムに異常がない限り点灯しません。システムに異常を検知すると警告灯が点灯し、走行中も消えません。ただし、ABS システムに異常があっても通常のブレーキは正常に動作します。



時計の設定:



§イグニッションスイッチの動作§



"ON" 位置:

- エンジンはこの位置で始動することができます。
- イグニッションスイッチキーは取り外せません。



"OFF" 位置:

- エンジンが停止され、この位置で再起動することはできません。
- イグニッションスイッチキーを取り外すことができます。

イグニッションスイッチ



§ステアリングハンドルロックスイッチの動作§



「ステアリングハンドルロック」位置

- ステアリングハンドルを左に回してキーを挿入し、イグニッションスイッチキーを時計回りに回したのち、軽く左に回して「ロック」の位置にします。
- ステアリングハンドルはこの位置にロックされます。
- イグニッションキーを取り外すことができます。
- ロックを解除する場合は、キーを"LOCK"の位置から"OFF"の位置に切り上げるだけです。

⚠ 注意:

- 座席をロックする前に、必ず鍵が手元にあることを確認し、閉じ込めてしまわないように注意しましょう。

§シートオープンスイッチの動作



- イグニッションスイッチキーを挿し込みます。
- イグニッションスイッチキーを「シートオープン」の位置まで、反時計回りに回します。
- 座席が開きます。

⚠ 注:

- オートバイが走っているときは、イグニッションスイッチキーを決して操作しないでください。イグニッションスイッチを"オフ"と「ロック」の位置に変えると、電気システムが遮断され、危険な事故が発生する可能性があります。そのため、イグニッションスイッチは、オートバイが完全に停止した後のみオフにできます。
- バイクを離れる前にハンドルをロックした後、必ずイグニッション・キーを取り外してください。
- エンジンが停止した後、イグニッションスイッチを長時間「ON」の位置に放置すると、バッテリーの容量が低下し、エンジンを再始動させにくくなるおそれがあります。
- 座席をロックする前に、必ず鍵が手元にあることを確認してください。

5 ボタンの使いかた

高/低ビーム
スイッチ

P アッシング/
シートオープン ス

ターニングナル
スイッチ

ホーンスイ

電気スターター
ボタン

• スターターボタン



これはエンジン始動用のボタン(スイッチ)です。

メインスイッチ をオンにして、このボタンを押しながら、前または後ろのブレーキレバーを握りながらエンジンを始動します。

△ 注意:

- エンジンに損傷させないよう、始動したらすぐにこのボタンを放し、もう一度押さないでください。
- 安全のため、エンジンはフロントまたはリアのブレーキレバー(ペダル)を適用している間のみ、始動できます。
- エンジンの始動時には灯火類を使用しないでください。ヘッドライトやターニングナルはオフであることを確認してからエンジンを始動しましょう。

• ハイ/ロービームスイッチ

ヘッドライトの位置を切り替えるスイッチです。このスイッチを押すと、ハイビームとロービームとが切り替わります。



これはハイビームを示します。



これはロービームを示します。市中走行時などはロービームを使用して走行しましょう。

• パッシング・スイッチ

イグニッションスイッチが「ON」の時にこのボタンを押すことで、瞬時にハイビームで前方を照射できます。前方の車両を追い越すつもりであることを知らせる警告などに用いるものです。ハイビームインジケータも点灯します。

- このスイッチは、指を放すと元に戻り、ヘッドライトもロービームに戻ります。

• シートの解錠(オープン)

Seat Open
Switch

イグニッションスイッチが ON の時、このボタンを押すとシートが開きます。ボタンは、手を放せば元の位置に戻ります。シートは押し下げること自動的にロックされます。シートを軽く持ち上げて確認しましょう。

△ 注意:

- 座席がロックされた後は必ずキーを取り外してください。
- 座席を押し下げるときにキーが収納ボックス内に閉じ込められないように、ロック解除後にキーを収納ボックスの中に入れてください。

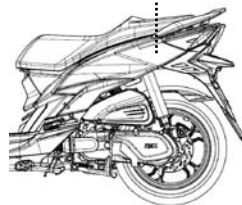
• エンジンスタート制御スイッチ

スイッチボタンの位置は座席の下にあります。

"ON"位置:エンジンがロックされており、この位置でエンジンを始動することはできません。

"OFF"位置:イグニッションスイッチが「ON」の位置にある場合は、フロントまたはリアブレーキレバーを握り、スターターボタンを押すと、エンジンが始動します。

エンジンスタート制御スイッチ



• ホーンスイッチ



イグニッションスイッチが ON 位置にあるときにこのボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

• ターンシグナルスイッチ

ターンシグナルライトは、左/右折または車線変更時に使用されます。

イグニッションスイッチを「ON」の位置に回し、ターンシグナルスイッチを左または右にスライドさせます。その後、ターンシグナル・ライトが点滅します。

消灯させるには、ターンシグナルライトボタンを元の位置に戻すだけです。



左側のターン信号の点滅は、左折するつもりであることを意味します。

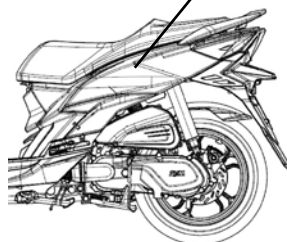


右側のターン信号の点滅は、右折するつもりであることを意味します。

§ 収納ボックス §

- この収納ボックスはシートの下にあります。
- 最大許容重量:10kg
- 貴重品は入らないでください。
- シートが押された後に完全にロックされていることを確認しましょう。
- 内部の物を濡らさないように、洗車前に貴重品を取り出してください。
- エンジンの熱と高温のため、熱に敏感な物体を収納ボックスに入れないでください。

収納ボックス



§ ヘルメットフック §

- 車両の停止時に、ヘルメットのおごベルトをフックに掛けておくことができます。

△ 注:

- バイクにダメージを与え、またヘルメットの機能を失うことを避けるために、乗車時にはヘルメットをこのフックに掛けしないでください。

鉤



§ 燃料タンクキャップ §

1. シートを開き、燃料キャップを反時計回りに回すと、キャップを取り外すことができます。
2. 燃料給油時に、上限を超えて給油しないでください。
3. キャップの「△」マークを燃料タンクの「△」マークに合わせて、燃料キャップを時計回りに回してロックしてください。その後、シートをロックします。

⚠ 注意:

- 安全のため、給油時にはメインスタンドで車体を立て、エンジンを停止し、火気厳禁をお守りください。
- 燃料タンクに示された上限を超えて給油しないでください。場合によっては燃料が溢れ、車体の塗装面などにダメージを負わせる可能性があるほか、深刻なケースでは、火災に見舞われる可能性もあります。
- 燃料キャップが正しく締められていることを確認します。

§ブレーキ§

右ブレーキレバーを引いてフロントブレーキを作動します。

左ブレーキレバーを引いて後ブレーキ(ABSモデル)を操作します。

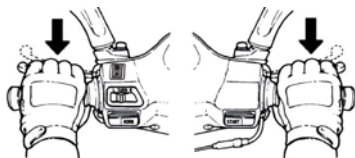
左ブレーキレバーを引いて前後ブレーキを同時に作動させます(CBSモデル)。

- 不必要な急ブレーキを避けてください。
- ブレーキをかけるときには、前後のブレーキを同時に使用します。
- ブレーキが過熱し、ブレーキ効率を低下させる可能性があるため、長時間にわたりブレーキを継続的に引きすぎないようにご注意ください。
- 雨天時などの滑りやすい道路では、早めに減速し、ブレーキをかけましょう。滑ったり、転倒したりしないよう、急なブレーキ操作を行わないでください。
- フロントブレーキまたはリアブレーキのみを使用すると、スクーターが片側に引っ張られる傾向があるため、転倒につながる恐れがあります。
- ABSを搭載したオートバイでも、コーナリング時のブレーキは車輪のスリップを引き起こす可能性があります。カーブを曲がるときは、前後ブレーキを軽く握る程度にするか、まったくブレーキをかけない方が良いでしょう。そのためにもコーナーに入る前にスピードを十分に落としましょう。

CBS モデル

前後ブレーキを同時に

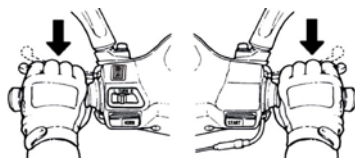
フロントブレーキのみ



ABS モデル

リアブレーキのみ

フロントブレーキのみ



《エンジンブレーキ》

スロットルグリップを元の位置に戻し、エンジンブレーキを適用します。

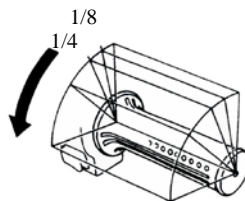
長い斜面や急な斜面に走るときは、前輪と後輪の両方に断続的にブレーキをかける必要があります。

エンジンの始動に関する重要な点と注意点

⚠ 注意:

- エンジンを始動する前に、オイルと燃料が十分に入っているか、確認してください。
- エンジンを始動するには、メインパーキングスタンドでしっかりと車両を立て、ブレーキを握り、オートバイが突然動き出したりしないよう後輪にブレーキをかける必要があります。

1. イグニッションキーを「ON」位置に回します。
2. 手(足)後輪ブレーキを適用します。
3. アクセルを操作せず、ブレーキを握りながら、スターターボタンを押してください。



[注意！ 車両から降車するときにも、必ずリアブレーキをかけましょう。]

△ 注:

- スターターモーターの損傷を避けるため、スターターボタンを 15 秒以上連続して押さないで下さい。
- スターターボタンを 15 回以上押してもエンジンが始動しない場合は、車両を完全に停止させ、その後 10 秒待ってから再び始動してみてください。
- オートバイを長時間アイドル状態で放置した後や、タンクがカラになるまで燃料を消費してしまった後では、エンジンを始動させるのは難しいです。この場合、場合によってはスターターレバー（ある車両だけ）を併用して、スロットルは閉じたまま、スターターボタンを数回押し、エンジンを始動させる必要があります。
- エンジンがコールド スタート（冷間時からの始動）の場合は、数分間、エンジンをウォームアップ（暖気）する必要があります。
- 排気ガスには有害ガス(CO)を含みます。そのため、換気の良い場所でエンジンを始動してください。

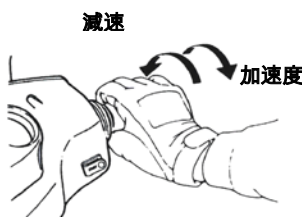
8. 車両を停止させるには：

- 路肩に車両を寄せ始める前にまずターンシグナルを点灯させ、後ろから車両が来ないことを確認しましょう。その後、路肩に寄せたり駐車場に入れることで、停止を実行します。

§スロットルグリップの制御

加速：速度を上げる。傾斜した道路を走らせるときは、スロットルグリップをゆっくりと回して、エンジンが十分に馬力を発揮できるようにします。

減速：速度を下げる。



§駐車方法 §

• 駐車場に近づいたら：

1. ターンシグナルを早めに点灯し、前後左右の車両に注意を払い、内側の車線を走りながら、ゆっくり目的の場所へとアプローチします。
2. スロットルグリップを完全に戻し、ブレーキを早めに使用しましょう。ブレーキを掛けると、後ろの車両のドライバーに警告するブレーキ灯が点灯します。

• 完全に停止したら：

3. ターンシグナルスイッチを戻し、イグニッションスイッチキーを「OFF」の位置に回してエンジンを停止します。
4. エンジンが停止した後、左側から車両を降ります。車両が交通を妨げず、水平な路面である駐車場を選択し、愛車のメインパーキングスタンドで車体を立てて停めます。
5. ステアリングハンドルを左手で持ち、サドルの前端を押さえるか、またはサドルの左下側の駐車ハンドルを右手で押さええます。
6. メインパーキングスタンドを右足で押し、メインパーキングスタンドを地面にしっかりと置きます。ステアリングハンドルをロックし、スクーターが盗まれるのを防ぐために駐車後にキーを取り外します。

⚠ 注意：

- 交通を妨げない安全な場所にあなたの愛車を駐車してください。

9. 乗車前の点検・メンテナンス

(以下のコンポーネントについては、コンポーネントの位置図を参照してください。)

§定期点検 §

| 点検項目 | | 点検すべき内容 |
|---------------------|----------|--|
| エンジンオイル | | エンジンオイルは十分ですか？ |
| 燃料 | | 十分に入っていますか？ オクタン価は90以上ですか |
| ブレーキ | フロント（前輪） | ブレーキの状態はどうか？ (ブレーキレバーの遊びは:10~20mmです) |
| | リア（後輪） | ブレーキの状態はどうか？ (ブレーキレバーの遊びは:10~20mmです) |
| タイヤ | フロント（前輪） | タイヤの空気圧は正常ですか？ (標準: 1.75kg/cm ²) |
| | リア（後輪） | タイヤの空気圧は正常ですか？ (標準: 1名乗車時: 2.0 kg/cm ² 、2名乗車時: 2.25 kg/cm ²) |
| ステアリングハンドル | | ハンドルが異常に振動したり、あるいは左右にきちんと切れなかつたりしませんか |
| スピードメーター、ライト、バックミラー | | それぞれは適切に動作していますか？ ライトは点灯しますか？ 後ろからはっきりと見えますか？ |
| 主なコンポーネントの取り付け | | ネジ、ナットは緩んでいませんか？ |
| 異常な箇所 | | 問題が発生したり、未解決のトラブルがあったりしませんか？ |



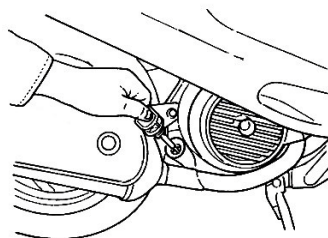
注意:

- 始業点検中に問題が発見された場合には、車両を使用する（走らせる）前に必ず問題点を修復しましょう。必要に応じて車両を「SYM 正規販売店」で点検し、必要な修理を施しましょう。

§エンジンオイルの点検および交換 §

・点検:

- メインスタンドを使用して、スクーターを水平面に直立させます。エンジンが停止した後に 3~5 分間置いてから、ディップスティックを取り外します。ディップスティックから油を拭き取り、再度ガイドチューブに挿入します(回転しないでください)。
 - ディップスティックを取り外し、オイルレベルが上下のマークの間にあるかどうかを確認します。
- オイルが下限値以下の場合は、上限までオイルを加えます。(シリンダー、クランクケースなどに漏れないか確認しましょう)



オイル交換:

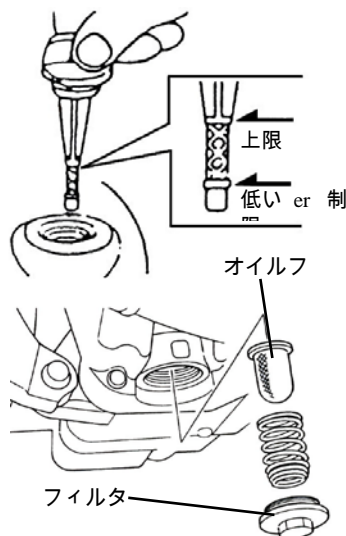
- オイル交換は最初は新車から 300km 走行後に、その後は 1000km 走行ごとに行ってください。
- エンジンの性能を設計通り発揮させるために、エンジンオイル量を 500km 走行ごとに確認してください。エンジンオイルが不十分であることが判明した場合は、上限までオイルを補充します
- エンジンオイル:(API)SJ MA 10W-30 グレード以上のエンジンオイルを使用してください(API SM 10W-50 を推奨)。推奨品を使用せずにエンジンにトラブルが発生した場合、保証の対象となりません。※推奨オイル:SYM 純正 4X オイル。
- XC12W2/XC20W2 : オイル容量 0.95 リットル。メンテナンス時の交換量は 0.7 リットル。
- XC12WX-EU/XC12WZ-EU : オイル容量 1.00 リットル。メンテナンス時の交換量は 0.8 リットル。
- 外気温が氷点下の場合は SAE 5W-40 を使用してください。

【オイルフィルターの清掃】

オイルフィルター・ボルトを抜き取り、オイルフィルター・エレメント（ストレーナー）を取り外します。ガソリンまたは高圧空気などを用いて、エレメントを洗浄し、異物を除去します。

警告:

- バイクを水平面に置かなかつたり、エンジン停止直後に点検した場合、オイルレベルが正確ではない恐れがあります。
- エンジンやマフラーはエンジン停止直後は高熱です。エンジンオイルの点検や交換時にやけどしないよう、十分注意してください。
- オイルレベルが補充後も下限に近づいた場合は、オイルの漏れを疑い、十分に点検し、再び補充してください。
- オイルの補充時は、火気厳禁で行ってください。



オイル乳化を避けるために

- 1 分間、暖気をしましょう。
- 少なくとも月に 10km は走らせましょう。
- 3 ヶ月または 1000km ごとにオイルを交換しましょう。

§燃料の点検§

- メインスイッチキーを「ON」にし、燃料ゲージの針の位置で、タンクに十分な量の燃料があることを確認します。
- この車両のエンジンは、90 オクタン以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- 燃料を補充するときは、地面にしっかりとメインスタンドで直立させ、エンジンを停止し、火気厳禁で。
- 燃料上限レベルを超えて燃料を補充しないこと。
- 燃料タンクキャップが正しく締め付けられていることを確認しましょう。

§トランスミッションオイルの点検および交換§

点検:

- メインスタンドを使用して、スクーターを水平面で直立させ、エンジンを停止させた後、3~5 分待ちます。トランスミッションオイル注入ボルトを取り外し、ピーカーなどの測量可能な容器をドレンボルトの下に置き、ドレンボルトを取り外します。排出されたトランスミッションオイルの容量を点検し、減少していないかどうかを確認します(分解時:180c.c./交換時:170c.c)

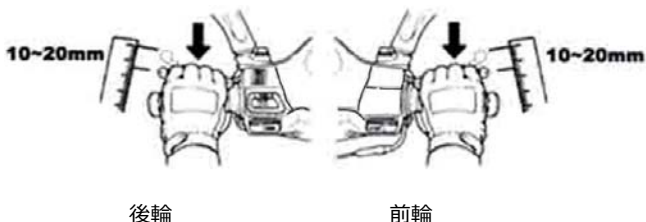
オイル交換:

- エンジンを停止し、メインスタンドで車両を直立にします。注入ボルトとドレンボルトを取り外し、オイルを排出します。
- ドレンボルトを取り付け、締めこみます。新しいトランスミッションオイル(170c.c.)を充填し、注入ボルトを取り付け、締めこみます。(ボルトが締め付けられていることを確認し、そこに漏れはありません。)
- 推奨オイル:純正 SYM ハイポイドギアオイル(SAE 85W-140)

§ブレーキの遊びの点検と調整§

点検：（ブレーキレバーの遊びは、エンジン停止状態で行ってください）

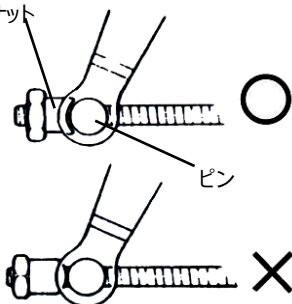
- 前輪と後輪用ブレーキレバーとブレーキペダル（装備されている車両）の遊び。
 - ◆フロント・ブレーキレバーの遊び（ブレーキなしからブレーキが利き始めるまでのブレーキレバーのストローク）は 10～20 mm となります。ブレーキレバーを強く握った時に感触が「ぐにやり」とスポンジ状であれば、ブレーキに異常がある恐れがあります。点検、調整を行いましょ。
 - ◆後輪のブレーキペダル（装着車のみ）の遊び（ブレーキなしからブレーキが利き始めるまでのブレーキペダルのストローク）は 20～30 mm です。ブレーキペダルを強く踏んだ感触がスポンジ状であれば、ブレーキに異常がある恐れがあります。点検、調整を行いましょ。



調整：(ドラムタイプ)(XC12W2-EU/XC05W2-EU/NL)

- ブレーキ調整ナットの形状は、ピンに合わせる必要があります(下図を参照)。

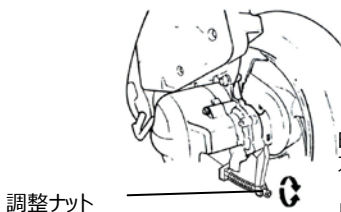
調整ナット



⚠ 注意:

遊びが 10～20 mm の間にあるよう調整、合わせてブレーキパネル上のブレーキインジケータを確認してください。ブレーキ・アーム上の矢印がインジケータにマークされた「△」に合致している状態はブレーキライニングの過度な摩耗を示しており、直ちに交換する必要があります。

- 前後のブレーキアームの調整ナットを回して、ブレーキレバー（ペダル）の遊びを調整します。
- 効果的なブレーキ感が出るまで両手で調整した後、ブレーキレバーを強く握ってください。
- 遊びを物差しなどで測定しましょ。

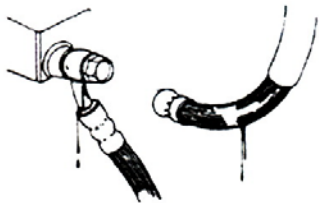


時計回りに回すと、遊びを減らす方向に働きます

反時計回りに回すと、遊びを増やす方向に働きます。

リアホイール ドラムブレーキタイプ

§ディスクブレーキの点検§ (ディスクブレーキを装備したモデルに適用)



(漏れ、破損、ブレーキラインの緩み)

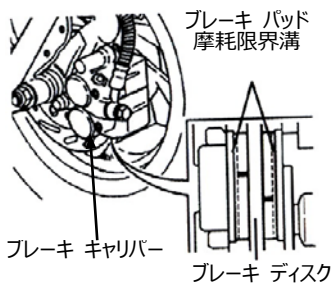
• ブレーキラインのフルード漏れや損傷の確認を行います。適切なレンチ等の工具を使用してボルトやファスナーに緩みがないか、ブレーキラインの接続を点検し、合わせてステアリングハンドルの操作がブレーキラインに干渉し部品を損傷させたり操作に影響させたりしないかを確認します。異常がある場合、修理やサービスのためにお買い求めのSYM正規販売店に車両をお持ち込みください。

⚠ 注意:

- 車両の状態が正常であることを確認するためには、周囲に何もなく、乾燥した路面のもと、ゆっくりと車両を運転し、前後ブレーキを操作して状況を確認してください。

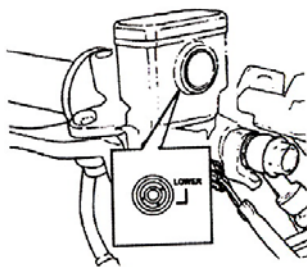
(フロント・ブレーキパッドの点検)

- ブレーキキャリパーの後ろからパッドを点検してください。ブレーキパッドの摩耗限界がブレーキディスクに達したら、ブレーキパッドを新品に交換する必要があります。



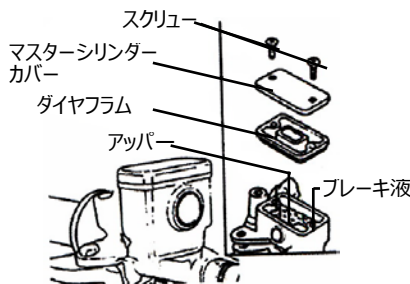
(ブレーキ・リザーバー・タンクを点検)

- 車両を水平面にメインスタンドで所持し、リザーバータンク内の点検窓で、内部のブレーキフルードが「LOWER」マークの上にあることを確認します。不足がある場合は推奨ブレーキフルード MOTUL DOT3&4 BRAKE FLUID で補充します。



(フロント・ブレーキフルードの補充)

1. スクリューを緩め、マスターシリンダーカバーを取り外します。
2. リザーバー周辺の異物や汚れを拭き取り、異物がタンク内に落ちないように注意して、ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキフルードをアッパーレベルまで補充します。
5. ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを向きに注意しながら取り付け、マスターシリンダーカバーを取り付けます。
6. 異物などがリザーバータンクに落ちないようにしてください。最後にマスターシリンダーカバーをしっかりと締め付けます。



⚠ 注意:

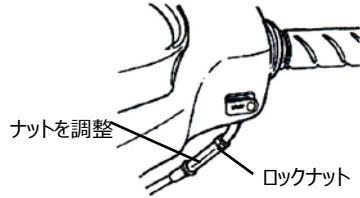
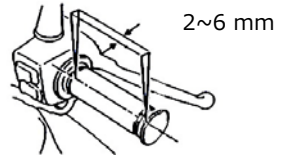
- 化学反応を防ぐため、推奨以外のブレーキ液は使用しないでください。
- ブレーキ液を補充する際は上限を超えないようにし、損傷を防ぐため塗装やプラスチック部品にこぼさないよう注意してください。

§スロットル（アクセル）グリップの調整 §

- スロットルの遊びは2~6mmの間に調整しましょう。
- ロックナットを最初に緩め、次にアジャストナットを回して調整します。終了したらロックナットをしっかり締めます。

以下の項目を確認しましょう:

1. スロットルケーブルを操作し、全閉から前回まで違和感なくスムーズに動くことを確認しましょう。
2. ステアリングハンドルを左右に動かして、スロットルケーブルが干渉しているかどうかを確認します。
3. スロットルケーブルが他のワイヤーやハーネスなどと干渉していないかどうかを確認し、スムーズに動作するようにします。

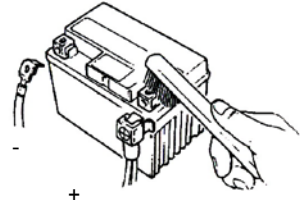


§バッテリーの点検とメンテナンス §

- この車両にはメンテナンスフリーのバッテリーが装備されているため、電解液の点検の必要はありません。異常が見つかった場合は、ご購入になったSYM正規販売店にご相談いただき、点検を受けてください。

(バッテリー端子の清掃)

- バッテリー端子を取り外し、汚れや腐食が発生した場合は清潔にしてください。
- バッテリーを車体から取り外すときは、以下の手順で行います。
イグニッションスイッチを「OFF」の位置に回し、まずネガティブ（マイナス）ターミナルのネジを外し、ケーブルを外します。次に、ポジティブ（プラス）のネジとケーブルを取り外します。



⚠ 注意:

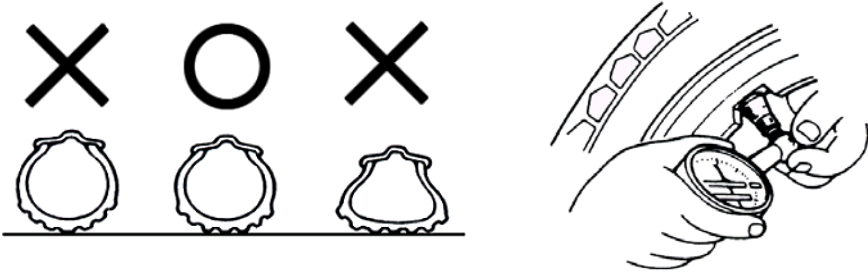
- バッテリーターミナルに汚れや腐食があり、あるいは白い粉のようなものが発生している場合は、温水でバッテリーターミナルを洗浄して汚れを取り除いてください。
 - 端子に明らかな腐食が見受けられる場合は、ケーブルを取り外し、スチールブラシまたはサンドペーパーで腐食、あるいは浸食を修正し取り除きます。
 - 洗浄後にバッテリーケーブルを取り付け、端子には薄くグリースを塗布してください。
 - 取り外しの逆の手順でバッテリーを取り付けます。
- この車両にはメンテナンスフリーのバッテリーが装備されているため、電解液の確認や補充の必要はありません。異常が見つかった場合は、お買い求めのSYM正規販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意:

- 搭載されているのは密閉式タイプのバッテリーです。キャップを外さないでください。
- バッテリーの漏電や自己放電を防ぐためには、車両を長時間放置しないこと。車両に乗らないまま長期保管する場合は、車両からバッテリーを取り外し、バッテリーを完全に充電させた後、換気の良い薄暗い場所に保管してください。バッテリーを車両に搭載したまま保管する場合は、バッテリーのネガティブ（マイナス）ケーブルを外します。
- バッテリーを交換する必要がある場合は、同じ密閉式バッテリー（メンテナンスフリー）に交換してください。

§ タイヤの点検 §

- タイヤの点検や空気の補充は、エンジンを止めた状態で行ってください。
- タイヤの接地面の形状に異常がみられる場合は、エアゲージで確認し、指定空気圧に調整します。
- タイヤの空気圧は、冷間時に行ってください。



必ず標準タイヤ空気圧をご参照ください

異物(釘や小石)



亀裂と損傷

トレッドウェアインジケータ

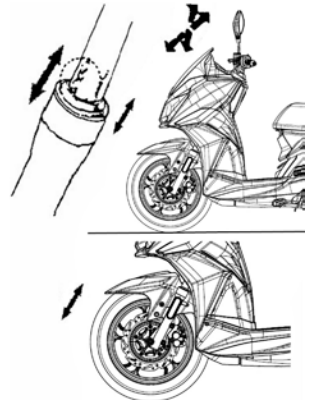
- タイヤ全体の亀裂や損傷の有無を点検しましょう。
- トレッドに釘や小石などが刺さっていないか、目視点検を。
- トレッド溝の深さが十分かどうかについては、タイヤ側面の△印（トレッドウェアインジケータ）を確認してください。
- インジケータが示すトレッド面が露出している場合、タイヤの摩耗が限界であり、交換が必要であることを示しています。

⚠ 注意:

- タイヤ空気圧の異常、摩耗、または亀裂などの存在は、車両の操作やステアリングから感じられる異常の直接的な原因のトップに挙げられます。十分注意して点検しましょう。

§ ステアリングハンドル フロントショックアブソーバー検査 §

- エンジンを停止し、イグニッションスイッチキーを取り外して、この点検を実行してください。
- まず、フロントフォークに損傷、外傷がないかを目視で丁寧に点検します。
- フロントフォークを上下に操作し、ショックアブソーバーに曲がり、ゆがみがあったり異常が出たりしていないかを点検します。
- フロントフォーク（ショックアブソーバー）の取り付けボルトやナットの締結が問題ないか、レンチなどの工具を用いて確認します。
- ステアリングハンドルを上下左右、前後に振って、取り付けに緩みがないか、ガタが生じていないかをよく点検します。また、左右いっぱいまで切った時に差がないか、ワイヤーなどで引っ張られる感触がないかを確認します。
- ブレーキケーブルでステアリングハンドルが強く引っ張られていないかを確認してください。
- フォーク、ショックアブソーバー、ステアリングなどに異常を感じられた場合は、必ずご購入のSYM 正規販売店に相談し、点検、場合によっては調整や修理を受けてください。

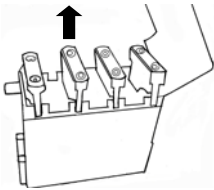


§ヒューズの点検と交換§

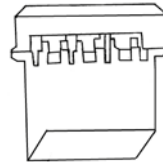
イグニッションスイッチをオフにし、ヒューズの状態を点検します。もし焼けたヒューズがあった場合、それぞれに指定されたものと同一の新しいヒューズ(10A/15A*2~3/20A)に交換してください。指定された容量以上のヒューズの使用や、代替品(銅線や鉄線など)の使用は、電装系全体に異常を及ぼし、回路を破壊する恐れがありますから、絶対にやめてください。

- シート下のストレージボックスを取り外すと、バッテリーの近くにあるヒューズホルダーにアクセスできます。
- ヒューズ ボックスカバーを開き、ヒューズを引き出します。焼損または破損していないかどうかを確認します。
- 交換時には、ケーブルコネクタでヒューズをしっかりと固定する必要があります。ヒューズの挿入が甘かったり、緩んだりすると、焼損や損傷の発生の原因になる恐れがあります。
- ヘッドライトなどの電球のような電装関連部品を交換する場合、必ず指定された部品を使用してください。仕様の異なる部品の使用は、ヒューズの短絡、焼損、あるいはバッテリーの過放電などにつながる恐れがあります。
- 車両を洗浄するときは、ヒューズボックスの上または周りに直接水を吹き付けないようにしてください。
- 交換した新品のヒューズがすぐに焼損した場合、もう一度交換する前に、焼損した原因を探しましょう。ヒューズの焼損などが未知の原因によって生じた場合は、車両をSYM正規販売店に持ち込み、点検してもらいましょう。

【取り外し】



【取付】



§ターンシグナル(ウinker)とホーンの点検

- イグニッションスイッチキーを「ON」の位置に回します。
- ターンシグナルスイッチをオンにし、フロントとリアと左右のフラッシャー(ウinker)ランプが点滅していること、さらに警告ブザーが鳴るかどうかが確認します。
- ターンシグナルライトカバーの汚れ、ひび割れ、または緩みの有無を点検し、必要に応じて調整します。
- ホーンボタンを押して、動作するかどうかを確認します。

⚠ 注意:

- ウinker用の電球は指定通りのものを使用してください。異なる商品は異常動作につながる恐れがあります。
- 右左折や車線の変更時には、ターンシグナルライトをオンにして、後方からくる車両のドライバーに警告します。
- 右左折完了後、あるいは車線変更後は、周囲の車両のドライバーの混乱を避けるためにも、速やかにボタンを押して、ターンシグナルライトを消しましょう。

§ヘッドライトとテールランプの点検

- エンジンを開始し、ヘッドランプスイッチをオンにします。ヘッドライトとテールランプが点灯しているかどうかを確認します。
- 壁などに正面からヘッドライトを照射し、ヘッドライトの高さ、向きなどが正しいかどうかを確認します。
- ヘッドライトカバーの汚れ、ひび割れ、または緩みなどを点検し、必要なら清掃、調整してください。

§ブレーキライトの点検

- イグニッションスイッチキーを「ON」の位置に回し、フロント及びリア・ブレーキレバーを握り、それぞれがブレーキライトを確実に点灯させていることを確認します。
- ブレーキライトカバーの汚れ、ひび割れ、または緩みなどを点検し、必要なら清掃、調整してください。

⚠ 注意:

- 電装系の損傷、焼損、電球の焼損やバッテリーの異常放電などを避けるため、バルブ(電球)は指定された仕様のみを使用し、異なるものは装着しないこと。
- 電装系に手を加えたり、指定されていない電装部品を加えるなど、純正装着の状態に変更を加えないこと。不必要な変更は、火災を引き起こしたり、車両に火災を発生させるような電気系の短絡、過荷重などの問題を発生させ得る恐れがあります。

§燃料漏れの点検§

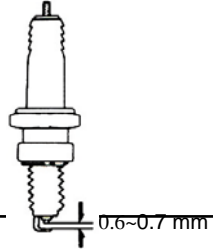
- 燃料タンク、燃料キャップ、燃料ホース、キャブレターなどからの漏れを点検してください。

§車体各部の潤滑の点検§

- 車体の稼働部分における潤滑が十分かをよく点検します(例えば、メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバーのピボットポイント..など)。

§スパークプラグの点検§

- スパークプラグケーブルのキャップを取り外し、スパークプラグレンチを使用してスパークプラグを取り外します。
- 電極を点検し、汚れやカーボン堆積物の有無を確認してください。
- ワイヤーブラシなどで電極のカーボン堆積物を取り除き、ガソリンでスパークプラグを清掃し、ウェスで拭きます。
- 電極のギャップを0.6~0.7 mmに収めるよう点検、修正します。
- スパークプラグを手で締め、レンチでもう1/2~3/4回転締めこみます。



⚠ 警告:

走行直後のエンジンは非常に熱くなっています。火傷をしないように注意してください。

※メーカーが指定するこの車両に適したスパークプラグのみを使用してください。

§エアクリーナーの点検§

《取り外しの手順》

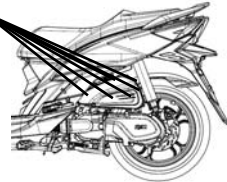
- エアクリーナーカバーからタッピングスクリューを取り外します。
- エアクリーナーカバーを取り外し、ネジを外し、フィルター・エレメントを取り外します。
- フィルター・エレメントを取り出して洗浄します。

* メンテナンススケジュールのタイミングを参照のこと。

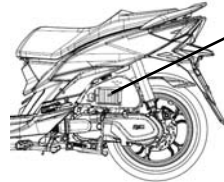
《組付けの手順》

- 取り外しとは逆の手順で組み立ててください。

スクリュ



エレメント

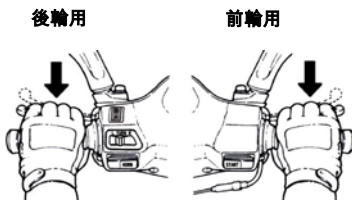
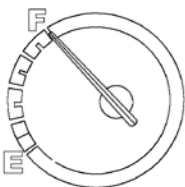


⚠ 注意:

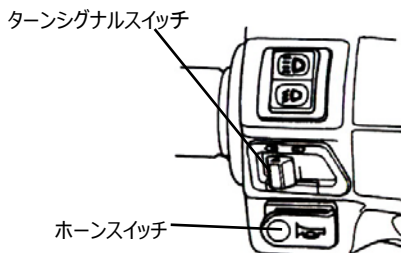
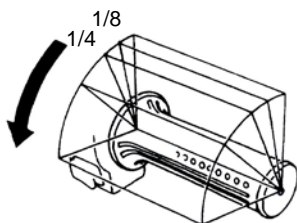
- エアフィルターの汚れは、車両の出力に影響をあたえ、燃費を悪化させる主因となります。
- 車両を極めて頻繁にほこりっぽい環境で使用している場合は、エンジンの寿命を延ばすためにも、より頻繁にエアクリーナー・エレメントを洗浄、もしくは交換してください。
- エアクリーナーの取り付けが確実になされていない場合、埃などがシリンダーに吸収され、想定よりも早くエンジンの摩耗が発生し、最高出力やエンジンの寿命の低下につながる恐れがあります。
- オートバイを洗うときはエアクリーナーを水で浸さないように注意してください。エアクリーナーが浸水すると、エンジンの始動が困難になります。

10. 異常な状態やトラブルがある場合

§ エンジンが始動しない場合の診断



- (1) イグニッションスイッチキーは ON の位置に回しましたか？ (2) 燃料タンクに十分な燃料があまり ありますか？ (3) スタートボタンを押すときに、リアまたはフロントブレーキを握っていますか？



- (4) セルボタンを押しながらスロットルを開けることはできますか？ (5) イグニッションスイッチキーを「ON」の位置に回しホーンボタンを押して、ホーンが鳴らない場合はヒューズが焼損している可能性があります。

上記の各項を確認し、それでもエンジンが始動できない場合には、直ちに車両をお買い求めの SYM 正規販売店に連絡を取り、車両の点検を受けてもらいましょう。

11. 燃料に関する規定

- この車両はオクタン値 90 以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- もし車両を標高の高い場所、地域で使用するのであれば(大気圧が低いところ)、エンジン性能を最大にするために空気/燃料比を再調整することが望ましい。

12. トランスミッションオイル

- 推奨 : MOTUL MOTYL GEAR 80W140

13. スクーターに乗る時の注意

1. メインスタンドでスクーターを上げ、サドルに座ります。
スクーターを押してメインパーキングスタンドを上げます。

注意:

- スロットルグリップを回転させて、発進前にエンジンの回転を上げないようにしましょう。

2. 左側からスクーターに乗って、サドルに適切に座って、右足を地面にしっかりとつけて車体を支えましょう。

注意:

- 発進するまでは、必ずリアブレーキを握っておきましょう。

3. スロットルグリップをゆっくりと回転させると、車両が動き始めます。

注意:

- スロットルグリップを急に大きく開けたり、クラッチレバーを突然手離すと、車両が急激に前方に動くことになり、極めて危険です。
- 走り出す前に、サイドスタンドが確実に格納されていることを確認してください。

【急ブレーキを使ったり、急旋回を行わないこと】

- 急ブレーキや急旋回は、車輛をすべらせたり、転倒させたりする原因になります。
- とりわけ、雨の日のようなすべりやすい路面状況では、急なブレーキや急なコーナリングは、横滑りや縦滑りをはじめ、転倒の重大なリスクが懸念されます。

【雨の日には細心の注意を払って運転しましょう】

- 雨の日や濡れた路面では、制動距離は大幅に伸びる傾向があります。したがって、減速し、早めにブレーキをかける準備をして運転しましょう。
- スロットルバルブハンドルを解放し、スロープを下るときに速度を下げながら、必要に応じてブレーキを適切に適用する必要があります。

§アンチロックブレーキシステム（ABS）§

ABSは、車輛をまっすぐ走らせているとき、激しいブレーキングを行っても、ホイールがロックすることを防ぐよう設計されています。ABSは、自動的にブレーキ力を調節する仕組みです。断続的にグリップ力と制動力を得ることは、ホイールがロックしてしまうことを防ぎ、停止しながら安定したステアリング制御を可能にします。

ブレーキの操作方法は従来のオートバイと同じです。フロント・ブレーキにはブレーキレバーを、リア・ブレーキにはブレーキレバーあるいはブレーキペダル（車種によって異なります）を使用します。

ABSは、ホイールがロックしてしまうことを防ぐことで、停止しながら安定性を提供しますが、次のような特性をも兼ね備えていることを、覚えておきましょう。

- ABSは、ぬれた路面などの厳しい道路状況や運転者による誤った判断、またはブレーキの不適切な使用を補償するものではありません。運転者は、ABSを装備していない車両と同じ注意を払う必要があります。
- ABSは制動距離を短くするには設計されていません。水や泥で緩んだ路面や、オフロードのような不整地、あるいは下り坂などでは、ABSを搭載した車両の制動距離は、ABSなしの同等の車両のそれよりも長くなる可能性があります。
- ABSは、正立状態におけるブレーキ時のホイールロックを防ぐことに役立ちますが、コーナリング中のブレーキによって引き起こされるホイールスリップを制御することはできません。角を曲がるときは、前後のブレーキを軽くかけるか、もしくはブレーキをかけないで運転する方が安全です。コーナーに入る前に十分にスピードを落としましょう。
- ABSを制御するコンピュータは、車両の速度とホイールの回転速度とを常時モニタリングしています。非推奨タイヤを使用していると、ホイールの回転速度が設計時と異なる恐れがあり、このためコンピュータが混乱し、制動距離をさらに引き延ばす恐れがあります。

注意：

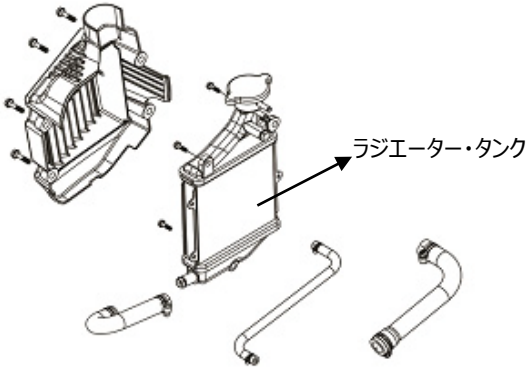
ABSは、すべての可能な危険からライダーを保護することはできませんし、安全な運転に代わるデバイスでもありません。

ABSシステムの動作方法や、ABSにできること、できないことについて十分に理解したうえで活用しましょう。天候、路面、交通状況に適した速度と方法で乗るのは運転者の責任です。

14. 冷却システムの点検（水冷モデル：XC12WX-EU、XC12WZ-EUに適用）

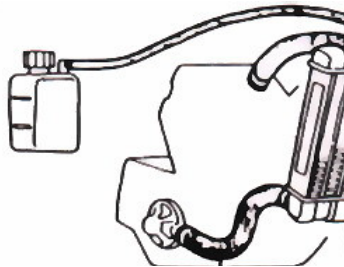
（冷却システムからの冷却液の漏れの点検）

1. 水平面にメインスタンドを用いて車体を垂直に保持します。
2. ラジエーター、並びに関連する配管から、冷却液の漏れがないかをよく点検します。
3. 車両から水滴が滴り落ちることが無いが、車両が駐車している地面を確認します。



クーラント（冷却液）の補充

- 車体を水平面に、メインスタンドを用いて直立させます。
- ラジエーター・タンクカバーを開きます。
- リザーバー・タンクカバーを開き、クーラントを追加して充填してください
- クーラントのレベル（量）が少なすぎる場合、冷却システムのどこからかクーラントが漏れている恐れがあります。
- ラジエーターが錆びたり悪影響が無いよう、推奨品以外のクーラントを使用しないでください。



冷却液の比率：50%

ラジエーター・タンク・クーラント容量：430ml。

リザーバー・タンク・クーラント 容量：75-150ml。

⚠ 注意：

- クーラントを薄める場合は、一般の水道水（軟水）を使用してください。
- 品質の悪いクーラントを使用すると、ラジエーターの寿命が短くなる場合がありますので注意してください。
- クーラントは通常、年に一度交換する必要があります。
- リザーバータンクにクーラントを補充することを忘れずに。
- 冷却システムのメンテナンスは、車両から特にシステムを取り外すことなく行えます。
- クーラントを車体の表面や塗装部分にこぼさないよう注意してください。
- 冷却システムのメンテナンス後、冷却システムに漏れがないことを確認します。
- エンジンが暖かい時には、ラジエーター・タンクカバーを開けないでください。高温に熱せられたクーラントはやけどを引き起こす恐れがあります。ただし、冷却システムの点検は、エンジンの完全冷却後でも行えます。
- 車輛を気温が零度を下回るような条件でご使用になる場合は、冷却水の濃度と温度については、表をご参照ください。

クーラント（冷却液）を凍結させないための混合比（参考）

- 凍結温度によって、クーラントの混合比を変更すれば対応可能です。

| クーラントの混入比率 | 凍結温度 | 参考 |
|------------|------|---|
| 20% | -8 | SYM 車両では、すべての出荷先に対し、確実に凍結防止性能を担保するために、クーラントの混合比を 50%にして出荷しています。 |
| 30% | -15 | |
| 40% | -24 | |
| 50% | -36 | |

- マニュアルで指定している不凍液が入手できない場合、同等以上の品質の不凍液を使用してください。
- 厳しい寒冷気候下では、ラジエーターのメンテナンス間隔をこまめに行うようにしてください。

15. 定期点検スケジュール

| 項目 | 走行距離 メンテナンス間隔 | 300KM | 毎 1000KM | 毎 3000KM | 毎 6000KM | 毎 12000KM | 備考 |
|----|-----------------------|-------|-------------------------|-------------|-------------|--------------|----|
| | | 初回 | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | |
| 1 | エアクリナーエレメント(備考) | I | C | | R(紙) | R(スポンジ) | |
| 2 | エアクリナー | I | | | | | |
| 3 | オイルフィルター(スクリーン) | C | | | C | | |
| 4 | エンジンオイル | R | I | 3000KM毎の交換 | | | |
| 5 | 燃料ポンプフィルター | I | 10000KMごとに交換 | | | | |
| 6 | タイヤ、空気圧 | I | I | | | | |
| 7 | バッテリー | I | I | | | | |
| 8 | スパークプラグ | I | | I | | R | |
| 9 | キャブレター(アイドルスピード) | I | | | I | | |
| 10 | ステアリングベアリングとハンドル | I | | I | | | |
| 11 | 変速機のオイル漏れ点検 | I | I | | | | |
| 12 | クランクケースのオイル漏れ点検 | I | I | | | | |
| 13 | トランスミッションオイル | R | 5000KMまたは5ヶ月ごとに交換 | | | | |
| 14 | ドライブベルト/ローラー | | | | I | R | |
| 15 | 燃料タンクスイッチとライン | I | | I | | | |
| 16 | スロットル操作およびケーブル | I | I | | | | |
| 17 | エンジンボルトとナット | I | | I | | | |
| 18 | シリンダーヘッド、シリンダー、ピストン | | | | I | | |
| 19 | 排気システム/カーボンの清掃 | | | | I | | |
| 20 | カムチェーン/点火タイミング | I | | I | | | |
| 21 | バルブクリアランス | I | | | I | | |
| 22 | ショックアブソーバー | I | | | I | | |
| 23 | ショックテンションロッド | | 10000KM毎に点検、30000KM毎に交換 | | | | |
| 23 | フロント/リアサスペンション | I | | | I | | |
| 24 | メイン/サイドスタンド | I | | | I/L | | |
| 25 | クランクケースブローバイシステム(PCV) | I | | I | | | |
| 26 | クラッチディスク | | | | I | | |
| 27 | ブレーキ機構/ブレーキライニング(パッド) | I | I | | | | |
| 28 | 各コンポーネントのボルト/ナット | I | I | | | | |
| 29 | 冷却液 | | I | I | | R | |

☆このメンテナンススケジュールは、毎月 1000km の走行を前提とし、そのどちらか早い方で行うよう設計されています。
 ※お手元の車両最高の状態でお使いいただけるよう、定期的にお買い求めの SYM 正規販売店にお持ちになり、点検とメンテナンスを実行してください。

コード: I ~ 検査、清掃、調整 R ~ 交換 C ~ 清掃(必要に応じて交換) L ~ 潤滑

備考: 1. 車両を埃っぽく、あるいは空気の汚染された環境下で使用する場合、エアクリナーエレメントの清掃、交換はより頻繁に行ってください。

2. 車輛を頻繁に高速で使用し、また距離が延びるような場合、メンテナンスはより頻繁に行う必要があります。

【備考内のメモは、該当するモデルを示すために使用されます。】

16. 仕様諸元

| アイテム | モデル仕様 | XC20W2-EU |
|--------------------|-------|--|
| 全長 | | 1990±20mm |
| 全幅 | | 730±10mm |
| 全高 | | 1115±20 mm |
| 軸距 (ホイールベース) | | 1350±20mm |
| 車両重量 | | 134±5kg(フロント 53+2kg リア 81+3kg) |
| エンジン型式 | | 強制空冷/強制潤滑式 4サイクル単気筒 |
| 燃料 | | 無鉛 ガソリン |
| 圧縮率(XC20W1-EU) | | 10.3 ± 0.2:1 |
| 最高出力 | | 9kw/7500rpm |
| 最大トルク | | 12.5N.m/6000rpm |
| バルブクリアランス:吸気/排気 | | 0.12/0.12 mm |
| 始動方式 | | エレクトリカル スターター |
| フロントショックアブソーバー | | テレスコピックフォーク |
| リアショックアブソーバー | | ダブルスイング式 |
| クラッチ タイプ | | 自動遠心クラッチ |
| 変速機形式 | | C.V.T. |
| フロントタイヤ | | 100/90-14 51P |
| リアタイヤ | | 110/80-14 59S |
| リムタイプ | | アルミニウム |
| タイヤ空気圧 | | フロント: 標準 /2.00 kg/cm ² , リア:標準2.00kg/cm ² (1名乗車時)、 2.25kg/cm ² (2名乗車時) |
| フロントブレーキ | | ディスク、(直径 260 mm) |
| リアブレーキ | | ディスクタイプ(直径 220 mm) |
| ヘッドライト ディープ/メインビーム | | 12V 19W/33W *1 |
| ポジションランプ | | 12V 3W *2 |
| テールライト/ストップライト | | 12V 0.12W/2.0W *1 |
| ターンシグナルライト フロント/リア | | 12V 10W*2/12V 10W*2 |
| エンジンオイル容量 | | 0.95 L (交換時0.70 L) |
| トランスミッション オイル 容量 | | 180c.c (交換時 170cc) |
| オイル・グレード | | SJ 10W 30 |
| 燃料タンク容量 | | 7.5±0.2L |
| ヒューズ(XC20W1-EU) | | 10A*1&15A*3 & 20A*1&25*1 |
| 点火プラグ | | CR7HSA |
| バッテリー容量 | | 12V 6Ah |
| エアクリナー | | 乾式 (ペーパータイプ) |

仕様諸元仕様諸元

| <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-bottom: 1px solid black; border-right: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin-right: 10px;"></div> <div style="display: flex; flex-direction: column; justify-content: center;"> モデル 仕様 </div> </div> | XC12W2-EU |
|--|--|
| 全長 | 1990 ±20mm |
| 全幅 | 730±10 mm |
| 全高 | 1115±20 mm |
| 軸距 (ホイールベース) | 1350±20mm |
| 車両重量 | 128±5kg (フロント 51±2kg リア 77±3kg) |
| エンジン形式 | 強制空冷/強制潤滑式 4サイクル単気筒 |
| 燃料仕様 | 無鉛 ガソリン |
| 圧縮比 | 10.7 ± 0.2 :1 |
| 最高出力 | 8.4kw/8500 rpm |
| 最大トルク | 10.3N.m/6500 rpm |
| バルブクリアランス: 吸気/排気 | 0.12/0.12 mm |
| 始動方式 | エレクトリカル スターター |
| フロントショックアブソーバー | テレスコピックフォーク |
| リアショックアブソーバー | ダブルスイング |
| トランスミッション | C.V.T. |
| フロントタイヤ | 100/90-14 51P |
| リアタイヤ | 110/80-14 59S |
| リムタイプ | アルミニウム |
| タイヤ空気圧 | フロント: 標準 /2.00 kg/cm ² , リア: 標準 /2.00kg/cm ² (1 名乗車時) 、/ 2.25kg/cm ² (2名乗車時) |
| フロントブレーキ | ディスク式(直径 260 mm) |
| リアブレーキ | ドラム式(直径 130 mm) |
| ヘッドライト | 12V 19W/33W *1 |
| ポジションランプ | 12V 3W *2 |
| テールライト/ストップライト | 12V 0.12W/2.0W*1 |
| ターンシグナルライトフロント/リア | 12V 10W*2/12V 10W*2 |
| オイル・グレード | SJ 10W 30 |
| エンジンオイル容量 | 0.95 L (交換時 0.70 L) |
| トランスミッション オイル 容量 | 180c.c (交換時 170c.c) |
| 燃料タンク容量 | 7.5±0.2L |
| ヒューズ | 10A*1 &15A*2 & 20A*1 |
| 点火プラグ | CR7HSA |
| バッテリー | 12V 6Ah |
| エアクリナー | 乾式 (ペーパータイプ) |



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項 (以下の原因による故障または不具合は保証対象外)

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書 (ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど) に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用 (競技等の目的で使用) 不適切な保管に起因した問題

機能や性能に影響のない感覚的な事象 (音、振動、液体のしみなど) 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状

車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等 (タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む)

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品

車両を使用できなかったことによる損失 (通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失) SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定にのっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。

モータリスト合同会社